

みんなで池干し！ in 動物園



イベントでは、あらかじめ水を抜いた池で生き物を捕獲してもらうため、イベントの前日午後から池干しを開始しました。噴水池の給水は、京都の森の小川からと噴水からの2か所です。まずは小川の水を板でせき止めます。小川に生息しているカワニナが死んでしまわないように、上下2つの池をホースでつなぎ、ポンプで循環させました。



噴水を止めてから、噴水池の水位を調整している排水口の板を引き上げ、水が流れ出ているか確認します。これで、明日のイベント開始までにはほとんどの水が抜けているはずです。



当日午前中から東海タナゴ研究会の方が来園され、現場を見ながらイベントの流れを決めました。池干しは何度も経験されているので、頼もしい限りです。

参加者の皆さんが集まって、いよいよイベントスタート！
まずは、どうして池干しをするのか、かんたんにお話してもらいます。



各自バケツとタモ網を持って、すべらないように注意しながら、ゆっくりと池に入ります。

池の底は泥がいっぱい。足を取られるし、どのくらいの深さかわからないので、みんな慎重に歩いていきます。



浅い所や深いところ、みんな好きな場所で生き物を探します。



作業が進むにつれて、うまく捕獲できるようになり、真剣さも増していきます。



池には、生き物の逃げ場となるように、一部深くなっているところがあります。投網も登場！
投網を投げる時にはみんな作業の手を止めて集まって見っていました。



捕獲した生き物の泥を落として種類ごとに分けます。
さて、なにが一番多くとれたかな？



池から上がったら、一息ついてイチモンジタナゴの紙芝居をみんなで見ました。今日池干したことでイチモンジタナゴのすめる池に一步近づいていると嬉しいですね。



捕獲した生き物の内訳です。
外来種・・・
ウシガエルのオタマジャクシ676匹



アメリカザリガニ44匹



ブルーギル76匹



在来種・・・
ヤリタナゴ42匹, カネヒラ8匹, オイカワ1匹, ヨシノボリ1
匹(残念ながら死亡していました)



在来種, 外来種はそれぞれ水槽に分けて, しばらくの間噴水池の横で展示し, イベントに参加していない来園者の方にも見ていただきました。



池干し中は意外とおいが気にならなかったため, 予定より少し長めの13日間行いました。ムクドリやセキレイが餌を取っていたり, ツバメが泥を取っていたり, 鳥たちには大人気でした。



そして再び噴水池へ給水をしました。水が落ち着いたところで, ヤリタナゴなどの在来種を池に戻しました。きれいになった噴水池で, 元気に泳ぎ回り, 繁殖もしてもらいたいものです。

池干しイベント当日は, 朝から雪がちらつくような寒さでしたが, 参加者の皆さんはとても熱心に活動していただき, とても有意義な時間となりました。

歴史ある噴水池が, これからも身近な生き物が安心して暮らせる池になるよう, 整備を続けていきたいと思えます！